

子どもオペラ学校 ～引き継ぐ宝物～

オペラを通して子どもたちの創造性・想像力を養うことを目的として、2006年10月から「第1回子どもオペラ学校」が開校しました。

第7回まで、オペラ《ヘンゼルとグレーテル》(日本語版)を題材に取り組んで来ました。回を重ねるにつれ、歌もダンスも演技もレベルアップし、集大成としての成果発表も大成功を収めました。

美しい歌声やハーモニー、楽しいダンスや群舞が受け継がれ、卒業生たちが練習に参加した時には一緒に歌えて踊れるという良さもありました。

また、市民による手作りの衣裳や道具も多くあるため、これらを貴重な財産として引き継ぎつつ、ここを一つの区切りとし、第8回からは、新しい題材、新しい授業の形式で進めていくことになりました。

《魔笛》に出会った子どもたち

「第8回子どもオペラ学校」は、2016年3月に開校しました。

W.A. モーツァルトが作曲したオペラ《魔笛》を題材とし、「考える」「理解する」「伝える」をテーマに、授業は体験型ワークショップで進められています。

小学3年生～中学2年生(応募時)の28人の大きな挑戦が始まりました。

そして、「第9回子どもオペラ学校」での《魔笛》公演を目指します。

これまでの歩み



第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

ニューイヤーオペラコンサート出演

第8回

考える

理解する

伝える

子どもオペラ学校

“魔笛”に出会った子どもたち

2016.07.18

オペラ《魔笛》あらすじ

岩山の中で大蛇に襲われた王子・タミーノは、3人の侍女に救われる。そして、侍女らの主人である夜の女王から、邪悪なザラストロに誘拐された娘・パミーナを救出しよう頼まれる。

パミーナの肖像画を見て恋心を抱いたタミーノは、鳥利しのハイゲンと共には、ザラストロの神殿へと向かうことに。彼らには「魔法の笛」と「銀の鈴」が与えられた。神殿で出会ったパミーナとタミーノは、1日で恋に落ちるが、この恋が成就するには、さまざまな試練を乗り越えなければならなかった。

タミーノは、次々に起こる難題にも勇敢に立ち向かい、笛と鈴の力や、三人の童子の母きにも助けられ、「沈黙」「火」「水」の試練に打ち勝った。夜の女王と侍女たちは、ザラストロへの復讐を試みるが、清唱と共に地獄に落ちてしまった。

舞台は、転じて太陽の世界になった。ザラストロは、試練を乗り越えたタミーノとパミーナを祝福し、一同モイシスとオシリス神を讃えた。

自分らしさを表現

5月14日(土)「ひたち国際大道芸」日立会場に参加し、自分で作ったお面をかぶって、行進したり、歌ったり、踊ったりしました。

たくさんの人の前で初めて発表したことで、緊張感や楽しさを味わい、観客の声援を肌で感じるとなど、良い体験ができました。

このようなさまざまな体験や経験を積み重ね、集大成として、7月18日(月祝)に、ワークショップ成果発表会を開きます。ぜひご覧ください。



音楽

表現

美術

ワークショップでの体験や作品の発表

子どもたちは《魔笛》より「魔法の笛よ」「銀の鈴の合唱」「火と水の試練」「フィナーレ」の4曲を聴いたり歌ったりする「音楽」お面づくりから作品を理解する「美術」踊りや演技で身体表現をする「表現」の3つのワークショップを通して、オペラ《魔笛》を体感してきました。

どの曲も大好きで、曲を覚えるのも早く、もっと上手になるよう考えたり、工夫したり、グループで話し合ったりしています。時には、生徒同士で声をかけ合い、ステップが分からない子と一緒に踊ってあげるなど、ほほえましい光景も見られます。経験の違いや年齢差があるからこそかもしれません。

ですが、作品に込める思いはみんな同じです。成果発表会では、自分らしい表現で今まで学んできたことを伝えよう！と張り切っています。

第8回子どもオペラ学校 ワークショップ成果発表会 “魔笛”に出会った子どもたち

～ひたちオリジナル版～

【翻案】W.A. モーツァルト作曲 オペラ《魔笛》(日本語上演)
【日時】2016年7月18日(月祝) 開演 14:00(開場 13:00)
【会場】日立シビックセンター音楽ホール

指揮：松下京介 演出：馬場紀雄 振付：小仲井宏美
ピアノ：古瀬安子・岡本麻理 フルート：中村優花
キャスト：第8回子どもオペラ学校生徒

子どもオペラ学校
協賛チケット

全席自由 700円

※ 売り上げの一部は、道具製作費などに使われます。

日立シビックセンター ほか
プレイガイドにて
発売中!